■奈良坂俊明（消化器内科医師、光学医療診療部副部長／2015 年 11 月 16 日～22 日）

今回、平成 27 年 11 月 16 日より 22 日までの 1 週間ベトナムホーチミン市のチョーライ病院を訪問してまいりました。目的は消化管内視鏡検査・治療の指導です。羽田発深夜 1 時半の出発で、現地到着が早朝 6 時となってしまいました。早朝にもかかわらずチョーライ病院の Tung 先生が空港まで迎えに来てくださり、安心して移動する事が出来ました。まず、ベトナムで最初に驚いた事は大量のバイクによる交通渋滞とクラクションによる喧騒でした。一体どうやってぶつからずに通行できているのか未だに不思議です。

病院に到着し関係部署にご挨拶した後に内視鏡室を訪問いたしました。病院内もバイクに負けず劣らず混雑しており、多数の患者さんがごった返している状況でした。内視鏡も例外では無く、外来用の検査室では午前中に 3 ブースで計 150 人を検査するとの事で一人あたり 3 分ほどしか時間がかけられないというのが実状との事です。日本式の内視鏡検査を見せてくれとの事で早速私も検査をさせて頂きました。設備も違いますので慣れるのには少し時間を要しました。そして拙い英語での解説でしたので、チョーライ病院の先生方には申し訳なく思います。今回は大学院生の圷先生と一緒でしたので、彼に助けてもらいながら何とか伝える努力はしたつもりです。

翌 17 日は午前中から大腸粘膜下層剥離術（ESD）を行いました。当初大腸 ESD の予定は無かったのですが、症例が見つかったようで急遽施行となりました。チョーライ病院での大腸 ESD 第 1 例目との事で、大腸用の高周波ナイフは用意できず胃用のナイフを流用せざるを得ませんでした。更に粘膜切除術（EMR）後の症例で瘢痕が強い為やや難渋しましたが、大きな合併症も無く終了いたしました。午後は大腸 EMR を 1 例（こちらは午前中に見つけた症例でした）施行した後に早期胃癌・大腸癌の診断と治療に関するレクチャーをさせて頂きました。診断・治療についてもさることながら、内視鏡機器の設定についての説明には大分関心を持たれたようでした。18 日の午前中は上部消化管内視鏡検査を行い、午後からは 11 カ国 16 施設との TV カンファレンスにも参加いたしました。19 日は午前中に早期胃癌の ESD を行いました。この症例の病変自体は小さかったのですが、かなり難しい部位にあり多少苦労いたしました。翌 20 日にも早期胃癌症例の ESD を行いました。この症例は EMR 後の再発症例で粘膜下層の線維化が強く非常に苦労いたしました。結局、当初の予定では 1 例だけであった ESD を 3 例する事になり、症例の多さにはびっくりしました。午後には先日 Endoscopy 誌に掲載された圷先生の論文「大腸憩室出血に対する留置スネアを用いた新しい止血法」のレクチャーを圷先生が行い、こちらも上々の反応でした。20 日の夜はチョーライ病院の先生方との晩餐にお招き頂き楽しく過ごさせて頂きました。

今回の訪問にて感じた事ですが、チョーライ病院では圧倒的に患者数が多く検査を捌くだけで精一杯となっているため、早期癌を診断する十分な余裕がないと思われます。今後の環境改善が望まれるところであると思いました。

最後に、このような機会を与えて頂きました国際連携室の秋山先生とスタッフの皆様、

そしてチョーライ病院の Dung 先生、Tung 先生、お世話になりました諸先生に感謝申し上げます。

チョーライ病院

内視鏡室にて ESD 終了直後。

送別会の会場にて。左より奈良坂、Tung 先生、Dung 先生、圷先生。